

(新規課題)

NO. 10	技術開発 課題名	木造家屋解体廃棄物（粘土瓦・ガラス陶磁器くず・床浚い残渣）の再資源化に関する技術開発		
事業者	・株式会社早稲田環境研究所 ・早稲田大学環境総合研究センター ・合同会社リバースシステム ・太平洋セメント株式会社 ・大和ハウス工業株式会社 ・積水ハウス株式会社 ・旭化成ホームズ株式会社 ・新和環境株式会社			
技術開発 経費の総額 (予定)	約130百万円	技術開発 の期間	平成25年度～27年度	
<input type="checkbox"/> 1 住宅等におけるエネルギーの効率的な利用に資する技術開発 <input checked="" type="checkbox"/> 2 住宅等に係る省資源、廃棄物削減に資する技術開発 <input type="checkbox"/> 3 住宅等の安全性の向上性に資する技術開発				
背景・目的	「ガラスくず、陶磁器くず及びコンクリートくず」及び「床浚い残渣」のセメント原料化によるコンソーシアム型の資源化システムを開発すること。			
■技術開発の概要				
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>背景と目的</p> <p>目的：建設廃棄物のリサイクル率向上 背景：特定建設資材廃棄物 ⇒ 建設リサイクル法の施行により向上。 それ以外の廃棄物 ⇒ 低率に止まっている。</p> <p>住宅建築廃棄物の発生量一覧 → 陶磁器くず、コンクリートくず、床浚い残渣 } のリサイクル率向上が課題 →</p> <div style="border: 1px dashed orange; padding: 5px; display: inline-block;"> セメント原料化によるリサイクル率向上を目指す リサイクル技術活用 ⇒ セメント製造プロセス技術の活用 リサイクル効率向上 ⇒ 排出事業者からの払出基準設定 ⇒ セメントメーカーの受入品質基準設定 リサイクルインフラ構築 ⇒ 広域処理システムの検討 </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>プロセス (25年度)</p> <p>仮説と想定： → 全体モデルの検討と仮定</p> <p>現状把握</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 住宅建設廃棄物発生状況調査と発生量の推計 ・廃棄物種類と全体数量調査 ・各種統計資料からの調査推計 ・住宅着工棟数統計等を利用した解体床面積からの推計 </div> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 住宅解体廃棄物のリサイクルルートと現状・実態把握 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>＜解体現場＞</p> <p>住宅メーカー等</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>＜中間処理＞</p> <p>排出事業者</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>＜動脈施設＞</p> <p>セメント事業者</p> </div> </div> <p style="text-align: right; font-size: small;">セメントの生成工程（環境事業の推進と建築廃棄物活用）</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>(1)セメント原料化に関する技術開発</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>排出モデルアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間処理業者（産業廃棄物プラント業者）実態調査 代表事業者排出物サンプルの分析 業界に影響のある産廃プラント業者を5～10社選択し、訪問、アンケート、サンプル分析。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>受入モデルアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正受入基準の検討 受入側基準値とリサイクル効率、コストのシミュレーション → 製造キャパシティ、製造品質影響、コスト（価格）への影響検討 セメント製造プロセス技術側からの提案 </div> </div> <p style="text-align: right; font-size: small;">受入品質基準策定とモデル提示</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>(2) 静脈物流管理システムの開発</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>住宅解体廃棄物の広域集約・リサイクルモデルの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 海上輸送を用いた廃棄物集約モデルの検討 海上輸送の物流コスト調査 排出における集約ルート、方法の検討 港湾倉庫等、集約拠点コスト等の調査 集約拠点での分別等工程検討 </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>(26年度)</p> <p>(3) 海上輸送による実証試験</p> <p style="text-align: center; color: orange;">再資源化実証</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>(27年度)</p> <p>(4) 情報管理システムの設計と法対応の在り方に関する検討</p> <p>(5) 総合評価および事業化に向けた検討</p> <p style="text-align: center; color: orange;">再資源化大規模実証 広域集約モデル実証</p> </div>				